

チームワークの
大切さ

吹奏楽から考える

吹奏楽大好き日本？

今年の夏は過去最多数のメダルを獲得したロンドン五輪や、専三振数記録、春夏同カード決勝で注目を集めた甲子園などがお茶の間を盛り上げてくれました。そんな大イベントも終わり、夏の終わりを感ぜませんが、実はまだまだ続く熱い大会があります。それは全日本吹奏楽コンクールです。

この大会は八月の地区予選を皮切りに、十月末頃に行われる全国大会まで約三カ月に渡り行われます。小学校・大学・職場・一般の六部門に分かれ、参加団体数は毎年一万を超えます。また、日本の吹奏楽人口は百万人を超えるといわれ、実は日本は**世界屈指の吹奏楽大国**なのです。

日本の吹奏楽の特徴

吹奏楽とは管楽器を主体とした演奏形態をさし、元々は軍隊として発展しました。楽器の性能の向上により、オーケストラと同等の演奏効果が得られるようになって、吹奏楽として

の分野が認められるようになりました。しかし管弦楽の歴史が深い欧州では、一般人の関心が低く、今も軍楽隊の音楽という認識が強いそうです。そんな吹奏楽を積極的に取り入れ、発展させたのはアメリカです。アメリカは新しい文化の育成を目的とし、学校教育などに取り入れられました。その中で効率的な奏法や指導法が生まれ、それが日本にも伝わり、**学校教育や生涯学習の取り組みとして人気が火が付きました。**

そして現在、日本の吹奏楽は独自の発展を見せています。その特徴の一つとして、全国的なコンクールが充実していることが挙げられます。また楽曲のバリエーションも豊富です。オーケストラ譜の編曲版の他にも、ポップスなどの編曲版や、専用に作曲された吹奏楽曲が多く、日本人作曲家の楽譜が海外でも出版されているなど、その楽曲の質の高さからも世界の注目を集めています。

吹奏楽に必要なもの

ここまで日本に吹奏楽が普及したのはなぜでしょうか。それは吹奏楽の**規律と協調を重視し、協力して一つのものを作り上げる**、という特徴が日本人の性格に合っていたからかもしれません。

管楽器は弦楽器と比べて音がとりづらく、音を合わせにくいとされています。そこで必

要となるのがチームワークです。吹奏楽にはトップという人が存在します。各楽器の舞台の中心側に座る人のことで、そこを基準に音色、音程を合わせます。しかし、全員がその基準の音を聞くのは困難です。そこで奏者は、伝言ゲームのように隣から隣へ音を伝え、合わせていきます。もし隣の音を信頼できなかったり、自分勝手に吹いてしまったら全体の音が合わなくなってしまう**。大切なのは周りを信頼し、互いを活かすために役割を果たすことです。**

吹奏楽から学んだこと

いい音楽を作るためには、技術だけでなく良いチームワークが必要です。そしてそれを生み出すためには、皆が同じ方向を向いている必要があります。**良い音楽を作りたいという共通意識があるからこそ、奏者はチームになれるのです。**これは仕事においても同じことが言えるのではないのでしょうか。いい仕事をしたという意識が、私たちをチームにします。そこで生まれた

チームワークがよい雰囲気を生み、いい仕事、良い結果へと繋がっていくのではないのでしょうか。チームメンバーを信頼し互いの能力を活かすために、自分が担う役割を意識して仕事に取り組みたいものです。

(企画制作部 窪田千紗)



029(233)6143

www.lilyacademia.com

一人ひとりの学ぶ力が伸びる、毎日が楽しい学習塾！
LA リリーアカデミア

Lily Academia

塾生
募集

- ・信頼と実績、リリーグループの学習塾
- ・パソコンだから実現できる、「わかりやすい」「楽しい」自立学習システム
- ・無料体験レッスン随時開催中！

